

生活保護受給 **依然** 増加傾向

厚生労働環境常任委員会で職員増員を求める

8月23、24の両日、閉会中の委員会審査が行われ、私渡辺ゆり子は2つの所属委員会で質問を行いました。

23日の厚生労働環境常任委員会では、生活保護の問題を取り上げました。

当日は冒頭、望月明雄・健康福祉部長の報告の中で、「昨年6月から7月にかけての厚

労省の事務監査で、山形市福祉事務所における生活保護の不適切な取り扱い(申請意思の確認および申請書交付)について指摘があり、

県として県内福祉事務所に指導の徹底を図った」と説明がありました。

昨年は生活保護の相談が増加し、春ごろから県社会保険推進協議会、県労連、山形版「派遣村」実行委員会などが「窓口で生活保護の申請書を渡さない実態がある」として、県に是正を求めるとともに、日本共産党地方議員も各自自治体で取り



2010年9月5日 第103号

発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子
＜連絡先＞
日本共産党県議団執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

上げてきました。

職員配置が追いついていない

この日の委員会で私は、「厚労省の指摘は県民から声があがって来た内容で、今後も生活保護の申請権を侵害しないよう、指導を徹底

底してほしい」と発言しました。

さらに、「最近の生活保護の受給傾向、また担当の職員配置の現状はどうか。ていねいな対応ができないように配置すべき」と質しました。



加藤祐悦・健康福祉企画課長は、「人口1000人あたりの受給者は、今年3月で5.2パーミルだったが、6月現在、5.3パーミルで増加は続いている」、「山形市は今年度2人の職員を増員したが、基準より1人不足しており、米沢市でも1人不足の状態となっている」、「今後も職員配置を指導していきたい」と答えました。

240人・大量解雇のケイエツチ問題

景気・雇用対策特別委員会で県をただす

24日の景気・雇用対策特別委員会では、縫製加工のケイエツチ(本社・東京都)の大量解雇問題を取り上げました。

同社は鶴岡市の2工場を閉鎖し、解雇予告手当を支払わず全従業員240人を解雇したことが報道されています。

私は、「山形県が『雇用2万人プラン』を進めている時に大問題だ。県として、

どう把握しているか」と質問しました。

石塚雅啓・雇用対策課長は「7月30日に通告して31日に解雇ということ、われわれも30日に知った。庄内総合支庁、鶴岡市、労働局などで情報収集し、連携して対応している。

会社側は8月19日に従業員への説明会を

雇用と地域経済守れ



連日、県議団も同席で、8月19日、県庁が緊急要請し、県に緊急要請しました。

雇用変動届を出さなければならぬが、提出されていない」と答えました。私は、「従業員の方々は解雇して再開など、なんなんだ」という思いが強く、今後の先行きも不透明で、不安が大きい。引き続き情報収集や生活支援、相談対応にあたってほしい」と主張しました。

県議会 9月定例会

県議会 9月定例会は21日開会予定です。日本共産党県議団は笹山県議団長が一般質問に立ちます。

ゆり子の視点

8月28、29の両日に福島市で開かれた、第56回日本母親大会に参加しました。

山形県からは約250人の参加です。

暑さの中で、全国の参加者が学び、語り合い、交流しました。

あふれる女性パワー

日本母親大会に参加



29日は、分科会『無縁社会』から絆づくりへに参加、NHK取材班の話も聞きました。ワーキングプア、無縁社会の取材から、今度は消えた高齢者問題へとつなげていきたいと思います。

ながら、9月5日に放送予定と紹介がありました。会場の参加者からも、「隣で一人暮らしの人が死亡していて、1カ月間わからなかった」などの発言があり、「何かできることをしたい」、「グループで配食サービスや声かけでなく、日本社会や政治のあり方、人生をどう生きていくか」の意義をも問われ

「長年勤めた女性の従業員が多いと聞いている。高校の新卒者も6名あり、(6カ月未満なので)雇用保険の失業給付対象とならない状況」などと答えました。

続けて私が、「大量解雇の場合は労働局に届出が必要とされているのではないかと指摘したので、石塚課長は、「雇用対策法で、再就職援助計画と大量